

自転車競技ロードレースに向けた取組について（稲城市）

① 市内のコースとして魅力的なポイント

○都道 南多摩尾根幹線道路

南多摩尾根幹線道路は、スポーツサイクリストのメッカとなりつつあり、週末ともなれば多くのサイクリストが訪れます。特に稲城市内においては、福祉センター入口交差点から多摩市境の若葉台地区までの区間が一貫して上り基調となっています。沿道にはシャワーや駐車場が整備された稲城市立総合体育館があり、遠方から訪れるサイクリストの起点として利用されています。総合体育館のある稲城中央公園には、陸上グラウンドや野球場も整備されており、他にも沿道には稲城市立稲城第五中学校、稲城市立向陽台小学校、稲城長峰ヴェルディフィールド、若葉台公園など、広い敷地を持つ施設があることから、多くの観戦者を収容することができます。さらに、これらの施設を競技大会開催時のイベント会場としても活用できると考えています。

○都道 川崎街道

稲城市大丸から多摩市連光寺までの間は、適度な距離、勾配により週末ともなるとホビーレーサーでにぎわい、繰り返しのインターバルトレーニングを行う実業団チームや、上記の南多摩尾根幹線道路を結び周回コースをトレーニングに用いるサイクリストで賑わっています。この地域はこれまでもトレーニングコースとして多くのサイクリストが訪れていますが、オリンピックコースとなることで、遠方からのサイクリストの呼び込み効果も期待でき、より一層の自転車競技の活性化が期待できます。

○よみうりランドV通り

距離は短いものの、上記2路線の倍以上の勾配があり、平日夜や冬場でも都内から気軽に訪れられるヒルクライムのトレーニングコースとして利用されています。また、市内のアミューズメントスポットである、よみうりランドや読売ジャイアンツ球場沿いを通るコースということで、ロードレースとのコラボレーションによる新たなイベント等の可能性が広がります。

※稲城市はスポーツサイクリストがトレーニングのために訪れる都内からの玄関口として広く利用されており、自転車競技が一般に広く認知されていくための素地、基盤が既に備わっている地域であると考えています。当市がオリンピック自転車競技のコースとなることは、市だけではなく、普段から稲城市を来訪する多くのサイクリストにとっても喜ばしいことであり、自転車競技が更に活性化していくための起爆剤になりうるものと考えております。

② 市として競技大会を盛り上げるイベント

今年度も気運醸成事業としてオリンピック金メダリストの荻原健司氏による講演会を開催したところですが、自転車競技（ロード・レース）のコースが稲城市内を周回することとなれば、これを好機として、市民が競技大会を歓迎し、盛り上げていく気運をより一層醸成してまいり

ます。また、競技大会当日は市を挙げてオリンピックを歓迎し、選手と観戦者が一体となって大会を盛り上げることができるよう、様々な取り組みを検討してまいります。

③ 競技大会のレガシー

○サイクルステーションの整備について

自転車競技（ロード・レース）のコースが市内を通った暁には、コースを示すモニュメントをはじめとした、カフェやシャワー、更衣室、自転車販売スペース等を備えた自転車愛好家の集まる拠点『サイクルステーション』を後世に残る記念碑として整備してまいりたいと考えております。

また、平成 28 年度には稲城市観光基本計画においても「自転車のまち」を位置づけております。ロードレースのコースが通過するだけでなく、市内を周回するコースで実施されるのであれば、より多くの市民に自転車競技ロードレースを観戦し、感じてもらうことができるため、自転車競技を広くアピールし、自転車文化を浸透させることにつながるものと考えています。その自転車文化を浸透させるためのレガシーとして、サイクルステーションを整備し、大会終了後も継続して自転車文化の啓発に努めてまいりたいと考えております。

○南多摩尾根幹線道路をオリンピック道路として

南多摩尾根幹線は現在暫定 2 車線となっており、東京都による本線部分の整備が計画されております。現在も多くのサイクリストに利用されているところですが、ここが自転車競技（ロード・レース）のコースとなった場合は、オリンピックのレガシーを本線の整備にあわせて残していただきたいと考えております。

オリンピック道路として、4 車線整備の際にはスポーツサイクリストが安全に走行することができるよう配慮したものとすることで、南多摩尾根幹線が自転車競技の活性化、競技人口の増加に将来にわたって継続的に資する道路となると考えております。